分枝 branching 129 11

http://branching.jp

ブランチング 12 発刊 2015 年　3 月 9 日
ブランチング 13 発刊 2015 年　6 月 9 日
ブランチング 14 発刊 2015 年　9 月 9 日
お問い合わせ・入稿先　system@branching.jp

幽霊の憂鬱

Sayoko FUNABASHI 1984～
船橋小夜子

photo by Chika MATSUDA

人生で達成すべき最優先事項はすでに完了してしまった。

あと半分以上残っている生。

あまりに多すぎ、長すぎる。

長い。

長い。

有り余る生。

有り余って、余りまくって、持て余している。

逝き損ないの幽霊。

この世に未練はない。

もう、お腹いっぱいだ。

濃密な 30 年に胃もたれする。

しかし世の中、死ぬことのほうが何かと面倒なシステムになっている。

賃貸の家、年金、残高多めの奨学金、あらゆるアカウントの始末、遺品整理をはじめ多大な迷惑を被る親…

考えただけで萎える。

生も死も面倒だ。

ほて、どうしたものか。

贅沢な時代の日本に縁ある一生まれた私。

非常に、申し訳ない。

生も、分け合えて嬉しい越せたらいいのに。

船橋小夜子 Sayoko Funabashi
クリエイター
1984 青森県八戸市生まれ
2009 多摩デザイン研究所 卒業
モバイルサイトデザインを経て現風俗勤務を経てフリーター
funabashi335@gmail.com

失敗談～甘えてましたね

Tomohiro SHIOTSU 1965～
塩津知広

先日は「小学校の先生方とのドラムサークル」を経験しました。ひとことで言えば「非常にラク」。こちらの意図を察してレスポンスをくださることを多し。まちがえレスポンスもとても早い。正直ところ「ありがたやありがたや」と思いながら時間を過ごさせていただきました。

でもなぜか「お行儀の良さ」に妙な居心地が否めなかったのも確かです。やんちゃと言おうが危なっかしさと言いましょうか、そういったものを感じられるときが多くありませんでした。スリルがなかった、と言いましょうか、そんな感じ。

「みなさんの“インナーチャイルド”を･･･」なんてカッコつけた言い回しで始めてはみたものの、それを呼び起こせなかったのはマチガイなく私の力不足だと感じております。心の底の底から笑えてなかったのではないでしょうか。反省しかり。

今回は、途中「リズム講座～暮らしのリズム / 世界のリズム」といったものも扱う人れてみました。この時の喰いつき様にちょっと驚きました。楽器の種類～暮らしのリズム / 世界のリズム」といったものも扱う人れてみました。この時の喰いつき様にちょっと驚きました。楽器手配必要感じました「あ、ノリだしてきたな」と。

「(先生なんだから) こんな程度のことはすでに知っているんだろうな」との先入観、それが私の先生方に向かう姿勢を狂わせてしまったのでしょう。なんか「了寒さ」に欠けていたと今では思っています。もっと、それこそ子どもに説くように、時間をたっぷりかけて。

別のレッスンでも似たような経験（というか事後感）がありました。「このくらいのことは理解っているだろう」というこちらの思い込み、それが生徒さんにレッスン時間中ずっと戸惑いを与えることになっちゃったのです。具体的には「幼児期から音楽教室に通っているので(でも ドラムはまだ 3 ヶ月)、3 連符くらいは叩けるだろう」って勝手に判断してました。

ます、こちらからオープンに接しないと、向こうだって心を開いてはくれません。最初にも書きましたが、先生方の寛大の良さ、それに甘えてしまっていたファシリテーターがあの日の私でした。参加の先生方には申し訳ないキモチです（「楽しかった！」と送り出してはいただけましたが）。

ちょっと苦いというか痛い経験をさせていただきました。

拙文、駄文、お読みいただきありがとうございました。

塩津知広 Tomohiro SHIOTSU
1965 年福岡県北九州市門司区生まれ 長野県長野市在住　音楽講師
1990～音楽教室講師として活動開始
2006 年～「ドラムサークルながの」発足
drumcirclenagano@gmail.com
http://hey8taedrums.com/dongn/